

社会インフラの防災と 危機管理を考える Part2

～災害に強い九州の道を、今できること～

東日本大震災から1年半が経過し、
地震の概要も明らかになっています。

今後想定される大規模地震の再評価がなされ
防災への取り組みの強化が求められている中
社会インフラの安全性への関心が高まり
その重要性が見直されています。

また、九州は台風などの風水害や火山噴火などの
自然災害が多発しており、その備えも必要です。

道路ネットワークは道路交通システムという
本来の役割に加えて災害時の被災地域への
緊急車両の通行確保だけでなく
地域の防災を担えるものとして
再認識されています。

シンポジウムでは東日本大震災や
今夏の九州北部豪雨災害と
その後の復興・復旧状況を踏まえ
九州の道路を中心とした社会インフラの
防災と危機管理について活発な討論を行います。



2012.10.17 (水) 13:00～17:00 (開場12:30) @JR九州ホール9階
定員500名 参加費 無料

主催／九州大学、共催／西日本高速道路(株)

後援／国土交通省 九州地方整備局、福岡県、福岡市

(社)土木学会西部支部、(社)地盤工学会九州支部、(社)日本コンクリート工学会九州支部、(社)九州橋梁・構造工学研究会

－プログラム－

13:00～13:05 開会／挨拶
落合 英俊 (九州大学 理事・副学長)

第一部

13:05～14:20 特別講演
『巨大災害にどう向きあうか？
～インフラのあり方と災害に対する国民的インフォームド・コンセント～』
家田 仁 (東京大学大学院 教授)

14:20～14:40 報告
『平成24年7月梅雨前線豪雨による災害』
塚原 浩一 (国土交通省 九州地方整備局 企画部長)

14:40～14:55 休憩

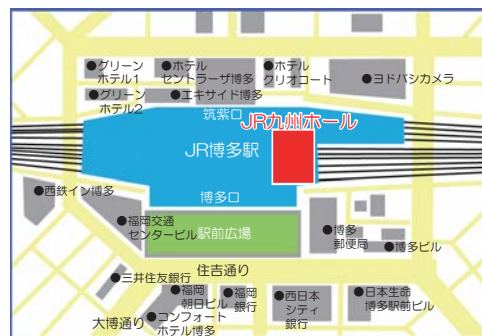
第二部

14:55～16:55 パネルディスカッション
『災害に強い九州の道を、今できること』
コーディネーター
大塚 久哲 (九州大学大学院 教授)
パネリスト
塚原 浩一 (国土交通省 九州地方整備局 企画部長)
猪狩 信浩 (宮崎県防災士ネットワーク会長 防災士)
大坪 篤史 (宮崎県危機管理局次長)
時枝 夏子 (日本赤十字九州国際看護大学大学院生)
藤本 秀勝 (NEXCO西日本 危機管理防災担当部長)

16:55～17:00 閉会



家田 仁 氏



◆JR博多駅周辺地図
JR博多シティ9階 レストランフロア奥 JR九州ホール

継続教育(CPD)プログラム／3.8単位認定

申込先／メール：symp2012@doc.kyushu-u.ac.jp FAX：092-802-3391

問合先／九州大学 江口 (092-802-3893又は092-802-3391)

参加希望の方は、氏名・所属・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記の上、メール又はFAXにてお申込みください。

また、本シンポジウムでは事前アンケートによるパネルディスカッションでのQ&Aを実施いたします。

申込の際にパネルディスカッションへのご質問・ご意見をご記入の上、申込みをお願いします。

期限は10月10日(水)、ただし定員になり次第締め切ります。

受付完了後、参加者へメール又はFAXにて参加証をお送りしますので、当日受付にご提出ください。

講演者、パネリストの略歴



家田 仁（いへだ ひとし）

東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
1955年生まれ、1978年東京大学工学部土木工学科卒業、日本国有鉄道入社、
1984年東京大学助手、1986年助教授、1995年教授、現在に至る。
途中、1988～89年ドイツ航空宇宙研究所客員研究員、1993～94年フィリピン大学客員教授、
2008年中国清華大学客員教授として長期派遣。専門は、交通学、都市学、国土学。
現在、土木学会副会長（震災担当）、社会資本整備審議会、
交通政策審議会、国土審議会などに参加。

塚原 浩一（つかはら ひろかず）

国土交通省九州地方整備局 企画部長
1961年東京都出身。東京大学大学院（工学系研究科）修了後、建設省へ入省。
内閣官房内閣参事官（安全保障・危機管理）、河川局河川事業調整官等を歴任し、
2011年7月現職へ。
九州地方整備局の防災業務等を担当。



猪狩 信浩（いがり のぶひろ）

防災士 宮崎県防災士ネットワーク会長
1961年生まれ、宮崎県出身。鹿児島大学理学部地学科を卒業後、
鹿児島市内の地質コンサルタント会社入社、現在有限会社お茶の翠峯園代表取締役。
（社）延岡青年会議所時代に東九州自動車道の早期実現に向けて積極的に活動した経緯がある。
商工団体の役員、民生児童委員、延岡市役所新庁舎建設委員（防災関連部門）。
地震、津波、火山、気象災害等について防災士として宮崎県内各地で講演活動を行っている。



大坪 篤史（おおつぼ あつし）

宮崎県 危機管理局 次長
1958年宮崎県出身、鹿児島大学法文学部卒業後、宮崎県庁入庁。
福岡事務所次長、総合政策課課長補佐、環境対策推進課長、
行政経営課長等を歴任し、2012年4月に現職へ。
危機管理部門は、2005～06年度に危機管理室室長補佐として勤務して以来2回目。
「危機管理はドリームチームで」が信条。



時枝 夏子（ときえだ なつこ）

日本赤十字九州国際看護大学大学院修士課程在学
看護師（RN）、保健師（PHN）。福岡県出身。日本赤十字九州国際看護大学看護学部卒。
5年間の福岡赤十字病院勤務（消化器外科病棟、集中治療室、手術室）後、
大学院で子どもの病に対する認識について研究中。
学生時代に大学の海外研修でミャンマー、タイ、ラオスを訪問。
昨年8月には学部学生とともに被災地（宮城県南三陸町、亘理町）でボランティア活動に参加。



藤本 秀勝（ふじもと ひでかつ）

西日本高速道路株式会社 保全サービス事業本部 危機管理防災担当部長
1956年兵庫県出身。立命館大学卒業。1974年日本道路公団入社。
保全グループ担当リーダー、シニアリーダー、
吹田管理事務所長等を歴任し、2011年7月に現職へ。
西日本エリアにおける危機管理対応、防災、BCM等を担当。



大塚 久哲（おおつか ひさのり）

九州大学大学院 工学研究院 社会基盤部門 教授
1948年生まれ、福岡県出身。1976年4月九州大学助手。1979年工学博士。
1996年9月九州大学教授。1991～96年には建設省土木研究所及び建築研究所に出向。
阪神大震災発生時には土木研究所地震防災部耐震研究室長として、各種耐震基準の改定に関与。
2008～09年土木学会副会長。専門は構造工学・耐震工学・地震防災学。
2011年に2度、東日本大震災の被災地を調査し、
津波避難にも使用できる高架道路の建設などを推奨している。



申 込 書

代表者 氏名 (フルネーム)			
所属先			
電話番号		FAX番号	
メールアドレス			
参加者 氏名 (フルネーム)			
パネルディスカッションへのご質問・ご意見			

FAXの方はこちらの申込書をご利用ください（FAX 092-802-3391）